

ら・ぽ〜と(rapport)とは「信頼・調和・話し合う」という意味です。

ら・ぽ〜と

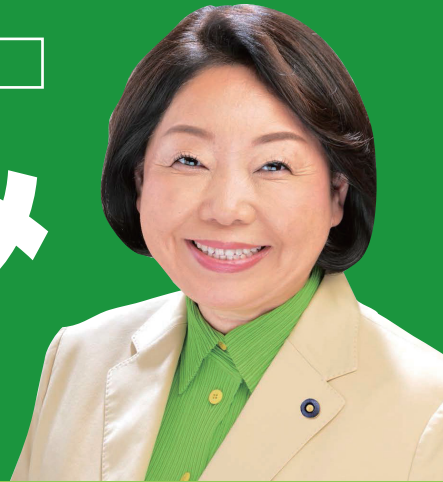
埼玉県議会議員

北第4区(熊谷市)

県政報告

vol.13

杉田しげみ



発行日 2023年(令和5年)2月3日

発行:埼玉県議会 自由民主党議員団

http://sugita-shigemi.com

討議資料



自民党

県行政を熊谷移転

【所属委員会】常任委員会…総務県民生活委員会(副委員長) / 特別委員会…経済・雇用対策特別委員会

県議会2月定例会が開催されます。(2月20日(月)~3月17日(金)の日程で調整中です。) 令和5年度予算等を審議します。

県議会議員 杉田しげみは熊谷が元気であり続けるために信念を貫き通します!

皆さまにおかれましては、お健やかに過ごしのことと存じます。おかげ様で、多くの皆さまに支えられ「地域で生きる・元気をつくる、これが私の役割」を常に心に抱き、県議会議員として、日々元気に歩みを進めておりますことをご報告いたします。このコロナ禍の3年間、私たちは想像をこえる厳しい経験をしました。しかし、それにまさる多くの大切なことを学びました。この経験を、今後いかに生かしていけるかが求められています。熊谷に生まれ、育ち、暮らし、働いてよかった!と思えるまち、熊谷市民であることに誇りが持て、ワクワクドキドキできるまち。一つひとつ丁寧に、時には大胆に、熊谷市民の皆さまが夢を持ち、夢を語り、そして実現できるように全力を尽くして参ります。

埼玉県議会議員 **杉田しげみ**



大野知事とタッグを組み 県政へ全カトライ!

貫く! 行政の分散を実現

例えば、県庁舎で働く職員の内3分の1が所掌事務とともに県北部に移ったところをイメージしてください。庁舎に向かう人の流れ、それに伴う官民の情報の集積は、この地域の存在感や資産価値を高め、周辺の商業地・住宅地に大きな波及効果を生むでしょう。さらには、新しい公共交通の創出もあるでしょう。朝の通勤時間帯に県南に集中していた人やモノの流れが変わります。適度なゆとりを保ったこの**新しい潮流は、北部地域の人々の笑顔と活力を運ぶ**ものです。最初は細くとも、いずれは成長することは必至です。

行政の分散はリスク回避に必須!

大規模災害やパンデミックに備え、県の中心機能は何力所かにある方が確実に良いはず。

貫く! 国際情勢に左右されない食料自給社会を実現

食料の自給社会の実現とは、取りも直さず農業を強くすること!

食料自給社会の実現に向け、国の対応を待つのではなく、生産・消費共に条件の良い埼玉県がリードしていくべきです。スマート農業の推進、担い手への農地集積などを通じた生産性の向上や、麦や飼料作物の生産拡大を通じた輸入依存からの脱却などを進め、食料安定保障の強化に取り組んでまいります。2022年9月議会で提案している補正予算(自給飼料の生産拡大、化学肥料の使用量低減に関する施策)は、食料安全保障の強化にも資するものです。こうした取り組みを通じ、**国際社会の変化に影響されにくい、強い農業に支えられた社会の実現を図りたい**と県議会で答弁いただきました。

「子育て」と「介護」は地域の方で支えあう仕組みづくりを熊谷に!

地域の先輩方をはじめ人と人との繋がりを大切に「おせっかいやき」に徹する地域づくりを実現します。「介護」は介護する人・される人の両方が共に尊重される環境が望ましく、地域で支え合う仕組みを構築することにより、「制度がメンタリティーを変える」ことができます。地域の課題を自分ごとに置きかえた仕組みをつくります。

女性と高齢者(シニア)がイキイキ活躍できる熊谷を!

女性の社会進出は必然です。女性視点と、ひたむきな努力をベースに、職場文化を変え、ダイバーシティを実現します。高齢者の皆さんは、現役時代に培った経験を活かし、タテ社会から離れ、達成感を味わえる働き方をすべきで、企業の環境づくりや理解が求められます。もちろん、行政の子育て・介護等の幅広い支援は必須条件です。

中小企業の活性化と雇用の充実で、熊谷を元気に!

地域の未来のために、今の地域を知りましょう。行政及び地域経済団体はヒト・モノ・カネ・情報を、ひとつずつ、丁寧に分析・支援の機会を提供する必要があります。女性と高齢者が活躍できる雇用の環境づくりが急務。もちろん、行政の子育て・介護・健康づくり等、幅広い支援は必須条件です。システムづくりの充実を図ります。

観光産業による熊谷の成長戦略を!

熊谷と言えば「スポーツ観光」「ラグビータウン熊谷」です!観光産業はより多くの市民が多様に参画できる、すそ野の広い産業です。国内トップクラスの「熊谷スポーツ文化公園」「熊谷ラグビー場」を生かしきり、スポーツ観光の充実を図ります。杉田しげみが提案した「谷津沼農業システム(天水を利用した稲作)」が、お陰様で日本農業遺産に認定されました。これを機に里山の原風景である、ため池や谷津を巡る「グリーン・アグリ・エコツーリズム」の実現により強い農業もつくります。

これからが農業の幕開けです

杉田しげみの提案から8年

おかげ様で2023.1.17 **認定** 決定!!

日本農業遺産

埼玉県比企丘陵地域(滑川町、東松山市、熊谷市、嵐山町、小川町、吉見町、寄居町)

比企丘陵の天水を利用した谷津沼農業システム